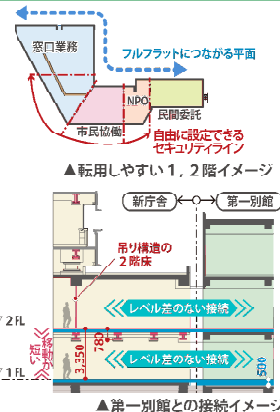


テーマ4.美称の将来を見据えた長寿命庁舎

4-01 時代の変化に強靱な庁舎づくり

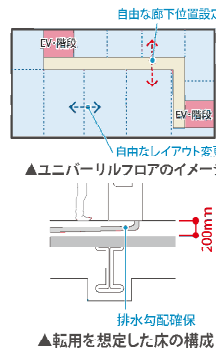
1・2階平面の最大確保

- 人口や職員数の減少により、現状のスペースに余剰が生まれ、子育てや介護、店舗などの用途に転用されることが予想されます。これらの用途で重要なポイントはアプローチのしやすさです。
- 可能な限り、1階そしてその直上である2階平面を大きく確保する計画とします。
- 1階の階高を絞り、2階床への移動のしやすさを向上させます。
- 第一別館の浸水しない高さまでの高上げ(周辺GL+500mm)と、新庁舎の2階床スラブを薄くする構造上の工夫により、新庁舎と第一別館は1、2階ともにレベル差なく、フラットに一体化する計画とします。



整形でコンパクトな高層部

- エレベータ、階段を2か所に設置することで、それぞれ専用使用が可能となり、フロアの柔軟性を向上させ、プライバシー確保などを必要とする医療系、福祉系への床の転用に配慮します。
- 内部の柱を極力減らし、床の自由度を向上させます。
- 余裕ある積載荷重・範囲を設定することで、将来のレイアウト変更に備えます。
- 給排水設備を必要とする用途にも対応できるように、床の構成やPSの配置に配慮します。



4-02 ユニバーサルな庁舎づくり

他の用途に転用される際、重要な観点のひとつは、空間の質であると考えます。

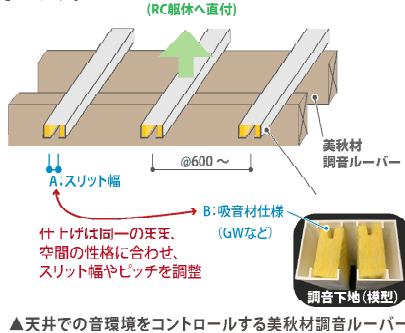
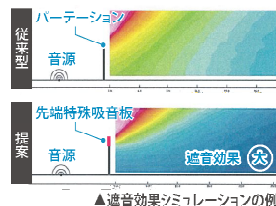
環境デザインの追求

- 長く使い続けて頂けるユニバーサルな空間であるにはそこに実現される「品質」が重要です。
- 熱 心地よい空気環境(焚火効果)**
- ドアの開閉が頻繁な窓口業務を集約した1、2階は、輻射熱を活用した躯体蓄熱外断熱工法によってヒートショックのない空気環境の「品質」を創出します。



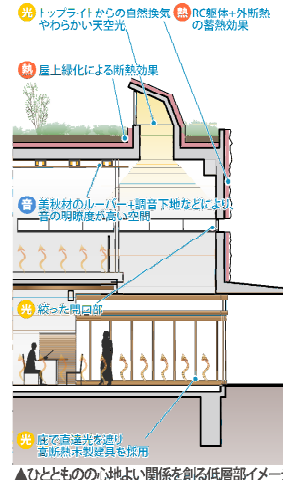
音 心地よい音環境

- 単に吸音するだけでなく、明瞭度と残響のバランスをコントロールし、その空間に適した音の「品質」をデザインします。
- 騒音を制御する遮音壁の種類はその効果を最大化する仕様を提案します。



光 心地よい光環境

- ・南西側の2階は窓を絞り、1階は庇をつけることで適度な自然光を採り入れ、内外が相互に関係する「光の質」を追求します。



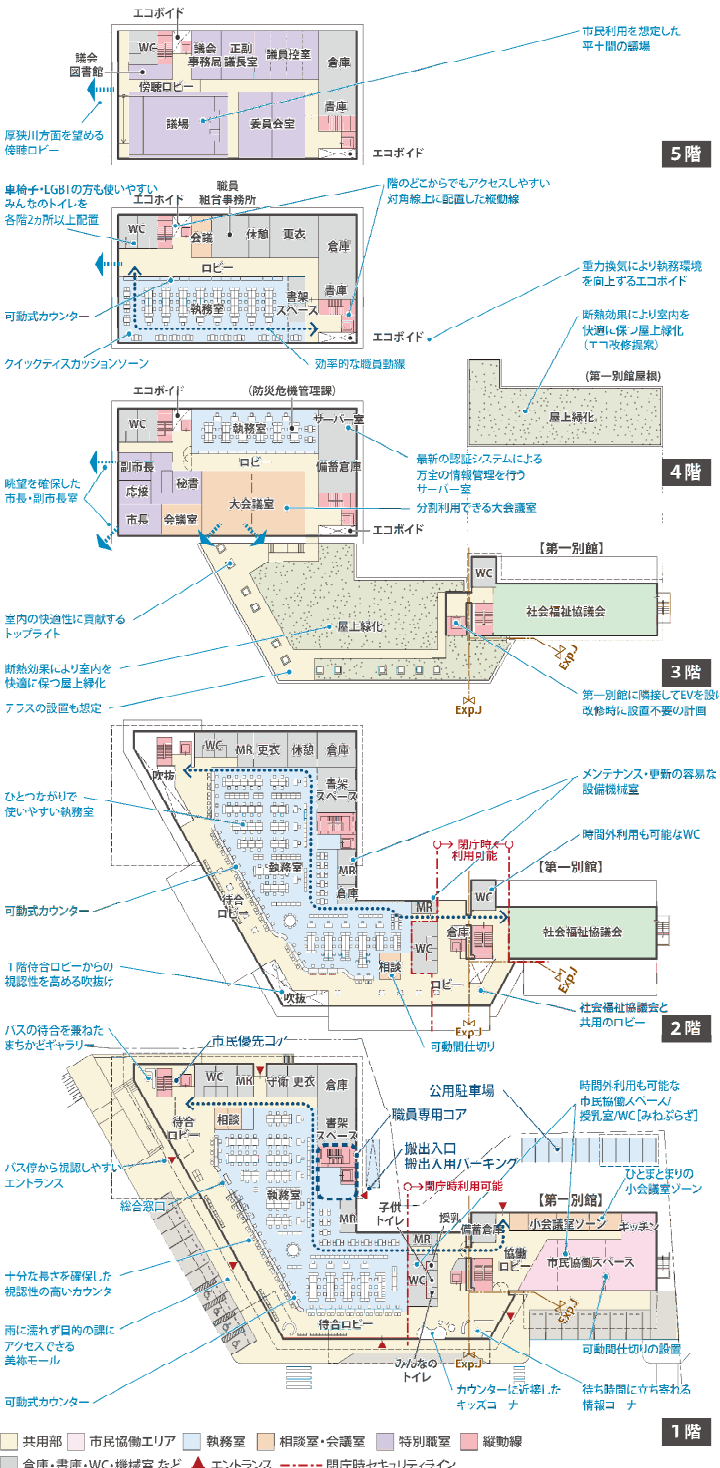
ひととものの心地よい関係を創る低層部イメージ

- 職員の主体性が発揮できる庁舎**
- ・カウンターやサイン、問仕切り壁など職員自らが変更できる仕様とします。



職員の主体性が発揮できる庁舎

- ・カウンターやサイン、問仕切り壁など職員自らが変更できる仕様とします。



ユニバーサルな空間イメージ